



Aobayama Concert

第9回 青葉山コンサート プログラム

2019年1月11日（金）17:30-19:30（開場 17:00）

東北大学 青葉山キャンパス 工学研究科 青葉記念会館

主催：青葉山コンサート実行委員会

東北大学総務企画部社会連携推進課

後援：東北大学 工学研究科・工学部

情報科学研究科

なにげなく口にしていたことば「くちびるに歌を、こころに太陽を」が、ドイツの詩人ツェーザル・フライシュレン(1864-1920)の作と知ったのは、最近である。てっきり、合唱部の古い合言葉ぐらいに思っていたので、驚いた。同窓会によるグランドピアノの寄贈を契機に始まったこの青葉山コンサートにて、来場者に聴いて頂くのを口実にして、一番楽しんであるのは出演者であろう。本番では恥はかけないと自分を鼓舞激励しつつ、自ら奏でる音にこころが温まるのは最高に心地よい。どんどん腕の上がる学生らを横目にして、かすむ楽譜と戦いながら、ひたすら自己陶醉する老練達の表舞台でもある。今晚の青葉山コンサートは、出演者にとって難度が高いのはご存知だろうか。当時のドイツ並に冷える室内で、凍える指と冷え切った身体と闘いながら、楽器に挑むからだ。だからこそ、ゲストのサクソプレーヤー名雪祥代さんをお迎えして、来場の皆様のこころに太陽が顔を出せば、本望である。

青葉山コンサート実行委員会 中田 俊彦

第1部 (17:30-)

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 南十字星 / M. D. Pujol
宮内清孝 (Gt)
情報科学研究科前期1年 | プホールはブエノスアイレス生まれのギタリスト兼作曲家。今回演奏する「南十字星」は緩急の効いた楽曲であり、導入部は叙情的な雰囲気漂い、後半は対照的に明るく軽快なリズムで流れていく。 |
| 2 | ピアノソナタ第10番 ハ長調 KV 330 第3楽章 アレグレット / W. A. Mozart
井樋慶一 (Pf)
情報科学研究科 教員 | 4月の青葉山コンサートで同曲の第1楽章、10月に第2楽章を演奏しましたが、今回は最終楽章(第3楽章)を演奏します。この楽章はハ長調で4分の2拍子、ソナタ形式で書かれています。軽快なモーツァルトを楽しく演奏したいと思います。 |
| 3 | 柳、舞い散る粉雪、シェリーのワルツ / A. York
川又政征 (Gt)
工学研究科 教員 | アンドリュー・ヨーク(1958-、米国のギタリスト兼作曲家)は斬新なギター曲を多数生み出している才人です。若者にとっても人気があります。今回演奏する曲は初級者向けの曲集8 Discernments(「八つの気付いたこと」という意味でしょうか)からの3曲です。 |

-
- 4
- 佐藤達也 (Pf)
情報科学研究科 教員
- I loves you, Porgy / G. Gershwin 作曲
1935年、Gershwinによって作曲されたオペラ「Porgy and Bess」の中の一曲。
love に “s” が付いているのは黒人英語の語法だそうです。「Summertime」や「My
man’s gone now」などのジャズスタンダード曲も、このオペラのために作曲されまし
た。
-
- 5
- 田原靖彦 (Mn)
工学研究科 OB
阿部玲子 (Pf)
賛助
- 雪が降る, サン・トワ・マミー / S. Adamo 作曲, 田原靖彦編曲
サルヴァートル・アダモによるシャンソン2曲を、マンドリンとピアノの演奏でお届けし
ます。何れも出演者(田原)のアレンジによるもので、「雪が降る」は冬のコンサートで
あることから、「サン・トワ・マミー」は、リズムカルな曲想がマンドリンのピッキングと良く
マッチすることから選定しています。
-
- 6
- 阿部玲子 (Pf)
賛助
中田俊彦 (Pf)
工学研究科 教員
- 愛の挨拶 / E. W. Elgar,
主よ, 人の望みの喜びよ / J. S. Bach
イギリスの作曲家エルガーが無名時代に妻アリスとの婚約記念に贈った作品。
バッハの教会カンタータ第147番。「心と口と行いと生活」の第10曲。多層的な声楽
作品が原曲。
-
- 7
- Trio Cellisten
トリオ・チェリステン
村田 智 (1stVc)
工学研究科教員
小宮慎司 (2ndVc)
法学研究科教員
阿部玲子 (Pf)
賛助
- 2本のチェロのための協奏曲 ト短調 RV531 より第1楽章 /
A. Vivaldi
2本のチェロとピアノのための3つの小品 作品62より 第1楽
章「ラルゲット」 / J. Klengel
18世紀のイタリアで活躍したヴィヴァルディは、協奏曲集「四季」をはじめとして、
様々な楽器のための協奏曲を数多く残している。中でも2つのチェロのための曲は楽
器編成としては珍しく、他の作曲家にもほとんど例がないと思われるが、重厚な音色
の迫力ある曲となっている。
ユリウス・クレンゲル(1859-1933)は長年にわたってライプチヒ・ゲヴァントハウス管
弦楽団の首席チェリストを務めた人で、チェロの曲をたくさん残し、また教育者としても
有名な人です。今回はめずらしいチェロ2本とピアノのための3重奏曲を演奏します。
それぞれの楽器が対等に語り合う、抒情にあふれた作品です。
-
- 8
- 星陵アンサンブル トロン
ボーン四重奏
匂坂康平 (Trb)
工学研究科前期1年
藤野春海 (Trb)
医学部医学科5年
本田良輔 (Trb)
歯学部4年
小熊 陽 (Trb)
医学部医学科3年
- PANGE LINGUA for 4 Trombones / A. Bruckner 作曲,
Sauer 編曲
オラトリオ『天地創造』から第26曲 “大いなる御業が成し遂げら
れた” / F. J. Haydn 作曲
私達は星陵アンサンブルという音楽サークルに所属し、様々な編成でのアンサンブ
ルを楽しんでおります。今回はトロンボーンアンサンブルとしては王道の四重奏にて演
奏させていただきます。トロンボーンならではの響きをお楽しみいただければと思いま
す。

第 2 部 (18:30-)

GUEST

名雪祥代 Quartet

Saxophone 名雪 祥代

Piano 北田 了一

Wood Bass 岩谷 眞

Drums 秋保 太郎

-
- 1
Here is it! /
北田了一作曲
- Horace Silver の楽曲を研究していた時期から程なくできた曲。Moanin' に代表される Funky Jazzタイプの楽曲で「そう、それぞれ！」という意味を込めて、このタイトルを付けました。(北田・談)
-
- 2
Hananoca /
名雪祥代作曲
- 生れたばかりの姪っ子の、小さく儂げな様子を見て書いた曲。赤ちゃんの持つ柔らかな空気感と、元気に育ってほしいという願いを込めて書いた。今、小学生に成長し、その儂さはどこへやら、わんぱくすぎる彼女(笑)、続編を書かなければとうれしく思う。
-
- 3
Habanera from Carmen /
G. Bizet 作曲
- オペラ「カルメン」はビゼーの代表作で主人公カルメンが歌う恋の歌。異国情緒漂うハバネラのリズムとジャズの自由なインプロヴィゼーションをドッキングさせた名雪オリジナルアレンジで、いつものカルメンのハバネラとは異なる面白みを感じてほしいです。
-
- 4
Yukiya-Konko /
作曲者不詳 (文部省唱歌)
- 日本に古くから伝わる唱歌「雪」。皆に親しまれる曲をジャズアレンジする事で、変幻自在なジャズの面白さを感じてほしいと編曲しました。しんと雪が降り積もる夜中、辺りは雪明りで照らされて…そんなムードある景色を思い浮かべて聴いて頂けたら幸いです。
-
- 5
Ojos de Rojo /
C. Walton 作曲
- アメリカ、テキサス出身のモダンジャズピアニスト・シダーウォルトン(1934-2013)は作曲家としても非凡な才能を持ち、アートブレイキー&ジャズメッセンジャーズ時代、日本にちなんだ楽曲も残している。今回の曲は英語で言うと Red Eyes の意味(楽曲との関連性は不明)。物悲しい旋律、Samba のフィール、曲の持つスピード感が一体となった楽曲。

終 演

名雪 祥代(なゆき さちよ) Saxophone



宮城県美里町(旧小牛田町)出身のジャズサクソプレイヤー。その演奏は、昭和音楽大学で学んだクラシック奏法に裏付けされた正確なテクニックと、男性的な力強いサウンド、女性らしい歌心溢れる表現力を併せ持つと定評がある。

2016年9月に発売したリーダーアルバム「Comfort」が、Amazon J-Jazz部門で第1位を獲得するなど、東北各地、さらには東京・大阪・北海道・名古屋など演奏の場を広げている。なおNHK第1(仙台放送局)「ゴジだっちゃ」水曜レギュラーパーソナリティとしてラジオに出演中。

北田 了ー(きただ りょういち) Piano



岩手県盛岡市出身。1995年横浜ジャズプロムナード、ジャズコンペティションにて「オリジナル大賞」「横浜市民賞」受賞。2016年開催「希望郷いわて国体」開会

式典前演技音楽担当。両陛下ご臨席の元、好評を博す。現在はジャズを始め様々なジャンルに渡り演奏、製作に関わる。

岩谷 眞(いわや まこと) Wood Bass



東北大学ジャズ研に入部し、ベースをはじめ。独学で練習を重ね、在学中よりプロミュージシャンとセッションを重ね、現在は仙台市内のライブハウスを中心に活躍。東北を中心に様々なバンドに所属する一方で、県外からのミュージシャンのサポートなど幅広い活動をしている。

青葉記念会館のグランドピアノは、震災後5年を経た2016年3月に心の復興のために機械系同窓会が寄贈したものです。

(使用可能時間：平日 9:30-19:30)

協力：工学部事務部 総務課、施設管理室

秋保 太郎(あきほ たろう) Drums



1972年、仙台市生まれ。(株)カノウプス契約エン지니어。hidden box studio 代表。

中学時代より独学でドラムを始め、大学進学と同時にセッションドラマーとして音楽活動を本格化させる。現在までCMやドラマなどの

楽曲への参加、アーティストのレコーディング&ライブサポートなど様々なフィールドで活動中。2008年には荒吐ロックフェスに出演。2010年および2012年には仙台定禅寺ストリートジャズフェスティバル(JSF)グランドフィナーレのホストドラマーを務める。2014年からは米ジャズ専門サイトにてJazzman of the year 第2位を獲得したNY在住のシンガー、ERIKAの日本ツアーにたびたび参加。その他、ロック、ポップス、ジャズ、邦楽など様々なジャンルのアーティストとの共演を果たしている。

一方で大学、大学院時代には海洋学研究室に在籍し、8度の外洋研究航海に参加。東北大学大学院非常勤職員を経て、海洋生物の研究で博士号を取得。現在でも音楽活動と並行して、専門学校の水族館職員養成コース講師として海洋生物、海洋環境問題に関する講義を担当している。農学博士。著作に「海洋プランクトン生態学」(成山堂書店/分担執筆)がある。

青葉山コンサート実行委員会

村田 智、 中田 俊彦、桑野 博喜
川又 政征、井樋 慶一、佐藤 達也
中村 肇、 田原 靖彦

青葉山コンサートホームページ

www.bio.is.tohoku.ac.jp/~aobayama/

シンボルマーク・ロゴタイプデザイン 笹川 瑛貴

プログラムデザイン・編集 川又 政征

2019. 1. 11

